
ネギま！～時の欠片～

レイ・クロフォード

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ネギま！～時の欠片～

【NNコード】

N8789Y

【作者名】

レイ・クロフォード

【あらすじ】

オリジナルキャラが多数出現するネギま！の世界の物語です。オリジナルキャラがチート気味になる事や本来と違うカップリングになる場合があります。

欠片が生まれた日（前書き）

記念すべき一作目……？

いいえ、作成日なら一作目です。

欠片が生まれた日

今より遙か昔のある時……

ある場所にて……

—封印柱の祈り—

カオス

「……レイ。本当に宜しいのですか？」

レイ

「ああ、まあ世界は見るよ。魔力の欠片から我が分身を作るからね

カイ

「だが……いや、お前がその責任を負う必要は……俺にも可能じや……」

レイ

「いや、これは私が負うべき…それに確かにこの責任はカイでも、私の能力に似た『静寂』のカイでも可能だ…。だが私の『時間』の方がより確実だからな…」

カオス

「ラプラス、現時刻からレイが再度現れるのに要する時間は?」

ラプラス

「そうですね…

ざっと見て300年後でしょうか。」

カオス

「レイ、本当は私が負うべき責を……」

レイ

「いや、だからいいってわ。

…じゃあ、こうしよう!

我が魔力の欠片で生まれる我が分身。

勿論の事、その分身レイには死染蝶はいないし、
多分記憶も無いと思うんだ。

だから、誰でもいい。我が分身体を守つてほしい。
まあの魔力の欠片が基礎になるか不安だが…
…カオス、魔力体についての知識は……」

カオス

「心得ておじまかよ。とこりかその本の著者をお忘れで？」

レイ

「ははは……んじゃ、もう行くわ。
ただちょっと問題として魔力体の出現する時代と空間が現在私には
把握できていないから
そこから……すまない。」

カオス

「貴方の負う責任に比べれば……。
大丈夫です、私にカイ、ラプラスと総力を上げて捜索いたします。
まあ貴方の魔力は異質ですからね。使用痕跡が分かれれば捕らえます
よ。」

レイ

「えじゅ……もつ時間だからなー。」

「ひつてレイは『滅び行く 絶望の 虚無』を封印する封印柱へ自
らを封印鍵として

眠りへついた…

この封印はその存在を拘束する意味もあるが、それ以上にこの封印が解けた際に確実に滅ぼすための手段をレイが術の中で行うものである。

レイ封印から290年後……

レイが……いや、レイ（魔力体）が発見された。

ナギ

「ほー…で、出現位置が俺ん家だつて？
というか魔力で人を生成つてどんだけだよ。
…無茶苦茶じやないか」

カオス

「貴方ほどの無茶苦茶な方でも考えませんものね。」

私もそんな心地するものに出会った事はありませんでしたよ……」

ナギ

「わかった。俺の息子もそろそろ生まれる頃だ。一緒に育ててみるぜ。」

カオス

「育てるって……貴方は結局世界を飛び回るじゃないですか。」

ナギ

「だから俺の娘にでも頼むからだ。まあ少しあは任せせておこしてくれ。」

「

カオス

「やれやれ……でも、なんとなく貴方にであれば任せられそうだ。よろしくお願こしますよ。ナギ」

ナギ

「おうー。」

それから、

さらに数年後……

メルディアナ魔法学校

卒業式

校長

「卒業証書授与」この七年間よくがんばってきた。だが、これが
らの修業が本番だ。
氣を抜くでないぞ。
ネギ・スプリングフィールド君！
レイ・スプリングフィールド君！」

ネギ&レイ

「「ハイ！」」

欠片が生まれた日（後書き）

あ、途中切りで申し訳ない。直ぐに続きを投稿します～

修行の地、決定！

アーニャ
「ネギ、レイ。何で書いてあつた？私はロンドンで incontrare 師よ。」

ネカネ

「修業の地はどこだったの？」

レイ

「今浮かび上がるところだね。」

ネギ

「お……」

アーニャ

「どう？」

ネギ

「えと……日本で先生をやる」と……

レイ

「あれ?...」

ネカネ

「レイへ...ビリしたの?」

レイ

「ビリしたも...ネギとおんなじだったからか?...修業の地

ネギ

「同じなんだ~レイと」

レイ

「みたいだね」

「じゃなくて...!...」

ネカネ&アーニャ

「ええ――――つ――?」

ネカネ

「『』、校長！『先生』ってびゅーことですか！？」

校長

「ほつ…『先生』か…。察するに一人ともかの？」

ネカネ

「何かの間違いではないのですか？10歳で先生など無理です」

アーニャ

「そうよ、ネギつたらただでさえ、チビでボケで…
レイなんて鈍感よ鈍感！しかも超ド級の方向音痴！」

レイ

「（散々ないわれようだなあ…）
しかし事実なので言い返せない
もつとも、方向音痴の方しか理解してはいないだろ？が…

校長

「しかし、卒業証書にそう書いてあるのなら、決まった事じや。立派な魔法使いになるためには、頑張つて修業してくるしかないのう」

ネカネ

「ああ…」

くらつ

ふらつくネカネ

ネギ

「あ、お姉ちゃん

レイ

「姉上！」

ガシツ

レイがネカネを立て直す

校長

「ふむ……安心せい。修業先の学園長はワシの友人じやからのも、がんばりなさい」

二人

「ハイ！わかりました！」

「うしてレイとネギは遙か遠くの国

日本へと修業のため向かっていったのであつた……

日本の都会

ネギ

「わーす」こや……

レイ

「僕はネギとはぐれたら迷子になる自信がある。この人の数だとね

…」

ネギ

「じゃあ、離れないよ」にね。僕も行き先が完全に分かつてゐるわけ
じゃないから……」

そして色々な人に聞きまわり、ようやく電車に乗り込んだ

ネギ

「うわー。日本人は本当に人が多いなー。それに女人が一杯だ。」

レイ「姉上の言葉が色々役立ちそうだが……ネギ。その杖の使い方はどうかとおもう……」

ネギ

「そういうレイもやつてるじゃないか。」

レイ

「ん、まあ……そ、ぎゃつ」

レイの会話の途中で電車が揺れて一人とも人ごみにつぶされる

少しして解放されると……

女の子A

「何？あの子たち

女の子B

「外国人？クスクス」

女の子ABC

「ヒヒヒ」

と笑顔でいたが、ネギ＆レイは驚いたというか綺麗な人達だと驚いたんだろうな

女の子C

「僕たち何処行くの？」

女の子B

「ヒヒから先は中学高校だよ？」

レイ

「あ、いえ、その……」

ネギ

「ハ……ハハ……」

レイ

「（あ、まざい……）」

ネギ

「ハックション！！」

ふわああ
……

ネギのくしゃみによりネギのもつ属性、風属性の魔力が少々もれて
そこに風があふれた

ネギ

「あ……」

レイ

「遅い……」

女の子C

「な、何なの、今の？」

女の子B

「つむじ風？」

アナウンス

『次は—麻帆良学園中央駅—』

女の子A

「あ、着くよ。」

そして

プシュー

ドアが開き、

女の子C

「じゃあね、坊や達」

女の子B

「気をつけてね」

ネギ

「え……」

女の子A

「時間やばっ 遅刻だー 急げ！」

一斉に人が動く……

急げ急げ！！と、そんな声も聞こえる

アナウンス

『学園生徒のみなさん。こちらは生活指導委員会です。今週は遅刻者ゼロ週間。

始業ベルまで10分を切りました。急ぎましょう。今週遅刻した人には当委員会よりイエローカードが進呈されます。

くれぐれも余裕を持った登校を・・・』

ネギ

「わわわ、何コレー？凄い人！これが日本の学校か……」

レイ

「じゃなくて時間！」

ネギ

「わッ、いけない。僕も遅刻する時間だ！」

レイ

「初日から遅刻なんてしゃれにならないからねーーー！」

ダッ

二人して走り出す……

これ、麻帆良学園へー（後書き）

はい、やつとこさ来ました。えーと、次あたりにネギとアスナの邂逅といったところですかね。

ファーストコンタクト（前書き）

ネギとアスナとレイと……主要面子の邂逅です。

ファーストコンタクト

同時刻…

別の場所にて

女の子D

「ヤバイ、ヤバイ。今日は早く出なきゃいけなかつたのに…」

叫んでるそこには女の子が一人一組で走っていた

女の子D

「でもさ、学園長の孫娘のアンタが、なんで新任教師達のお迎えまでやんなきゃなんないの？」

女の子E（学園長の孫娘）
「すまんすまん」

女の子D

「学園長の友人なら、そいつもじじいたちに決まつてゐるじゃん。」

学園長の孫娘

「 どうか? 今田は運営の出会いがありて呂いに書いてあるえ? 」

女の子D

- え・ア・ジ・- 2. 」

学園長の孫娘

「ほら二二、しかも好きな人の名前を10回書いて、ワン」と囁くと効果ありやで…」

女の子D

גַּעֲמָנָה - ?

高畠先生

高畠先生

高烟先生

高烟先生

高
火
先
生

ワンツー！

女の子ABC

「びくうーー！」

学園長の孫娘

「…………あははは…………アスナ。高畠先生のためなら何でもするわ……
ホントにやるとは…………」

女の子D^{アスナ}

「殺すわよ」

学園長の孫娘

「えーと、次は逆立ちして開脚の上全力疾走50Mして「にやー」と鳴く……」

アスナ

「や、り、ねえーーー！」

となんだかんだやつて……

学園長の孫娘

「にしてもアスナ。足速いよね。私コレやのに…………」

アスナ「悪かつたわね……体力馬鹿で……」

ふわつ
.....

その一組に近づいた人物が一人

アスナ
「ん」

ネギ
「あのー.....あなた失恋の相が出てますよ?」

レイ

「ネギ.....直球は駄目だ。もう少しやんわりとだな.....」

ネギ

「でも.....」

アスナ

「え.....な.....し.....しつ.....つて」

レイ

「ほひ……な、だから……」

アスナ

「何だとこそこそガキヤー……！」

レイ&ネギ

「うわああーー？」

ネギ

「い、いえ、何か占いの話が出てたようだつたので……つい

レイ

「ネギそういうの好きだもんな……」

アスナ

「どビビビビウニヒー」とよ。テキトーにいつと承知しないわよー。」

ネギ

「い、いえ……」

レイ

「僕にも分かる……正直に言つとかなりドギツい失恋の相が出てま

す……。」「

アスナ

「ちょっとー」

学園長の孫娘

「なあなあ相手は子供やうー?」の子たち初等部の子達と違うん?」

アスナ

「あたしはね!ガキは大ッツキライなのよ!…」

ガシツ

アスナはネギの頭を掴み持ち上げる……片手で

レイ
「おお……」

ネギ

「つひつ

アスナ

「取り消しなさいよ…… あんたもよーー。」

学園長の孫娘

「坊や達、こんな所に何しに来たん?」

「ここは麻帆良学園都市の中でも一番奥の方の女子校エリア。初等部は前の駅やよ。」

アスナ

「そうーつまり子供達は入つてきちゃいけないの。わかつた?」

ネギ

「は、放してくださいー……レ、レイも助けて……」

レイ

「ん~…血業自得?」

ネギ

「そんな淡々と……

(あうう、なんて乱暴な女人なんだ。日本の女人人は親切で優しいって聞いたのに……)「

学園長の孫娘

「ほなウチら用事あるから一人で帰つてな。」

アスナ

「じゃあね僕たち！…」

レイ

「い、いや、僕らは……」

そこに天？いや上から声が聞こえる

男性教師

「いやーいいんだよ！アスナ君！…」

それは職員室の窓からだった

男性教師

「お久しぶりでーす！…ネギ君！…レイ君！…」

アスナ

「えつ……」

レイ&ネギ

「あ」

アスナはネギから手を離し……

アスナ

「た、高畑先生…お、おはよ／＼しゃれこます……」

学園長の孫娘

「おはよー／＼しゃれこまーす」

ネギ

「久しふりタカミチ！…」

レイ

「タカミチー貴方も！」この教師とは……」

アスナ

「！？……し、知り合い……！？」

そしてタカミチは……

こう、告げる

高畠先生

「麻帆良学園へようこそ。いい所でしょう？」

「ネギ先生」

「レイ先生」。

学園長の孫娘

「え……せ、先生？」

ネギ

「あ、ハイ。そうです。」

こほんっ

ネギは咳払いを忘れず・・・

ネギ

「この度、この学校で英語の教師をやることになりました。
ネギ・スプリングフィールドです。」

レイ「挨拶が遅れまして申し訳ござりません。

この度、この学校で数学の教師をやることになりました。

レイ・スプリングフィールドと申します。よろしくおねがいします。

「

アスナ & α m p.・学園長の孫娘

「え…ええーっ」

アスナ

「ちょ、ちょっと待つよ。先生ってどうこういって? あんたたち
みたいなガキンチョが!」

学園長の孫娘

「まーまーアスナ」

すると降りてきたタカミチ

高畠先生

「いや、彼等は頭いいんだ。安心したまえ」

アスナ

「先生… そんなこと言われても…」

高畠先生

「あと、今日から僕に代わって、君たちA組の担任&副担任になつてくれるやうだよ。」

アスナ

「そ、そんなん、アタシ。こんな子達いやです。
さつさだつていきなり失恋、いや失礼な言葉を私に……」

ネギ

「いや、でもレイもいつたとおり本当なんですよ」

アスナ

「本当…」

レイ

「いや、でもネギの言い方にも問題がないとはいえないんだけど…」

…」

アスナ

「大体あたしはガキが嫌いなのよ。あんたみたいに無神経でチビでマメでミジンコで……」

次の瞬間……

ネギにアスナは掴みかかった……

しかし、ふわりと動いたアスナの髪がネギの鼻をくすぐり……爆発

ネギのくしゃみを至近距離で受けてしまい服が飛んでしまった……

レイ

「（あはは、ネギは風属性だからまだいいけど……僕は無属性だから……いや、特殊だから何出るか分からんだけね）」

一人状況理解の上、そんな事を心で呟くレイであった。

ファーストコンタクト（後書き）

貯まってる分は今日中に上げてしまつよ~。
ああそуд。次から一応後書きにキャラ紹介載せよつかと思います。
多いので。

ねりひょん? こへ園長や。 (漫書)

園長頭長いですよね。
ねりひょんで充分な氣がします。

ねりうひょん? いじえ学園長です。

その後、アスナはジヤージに着替えて、
学園長室へ

一緒にいたレイ&ネギ
及び学園長の孫娘とともにそこにはいる

アスナ
「学園長先生! 一体どーゆーことなんですか?」

学園長

「まあまあアスナちゃんや。」

そつ学園長はアスナをなだめる。

学園長

「なるほど修業のために日本で学校の先生を……
そりやまた大変な課題をもろうたの!」

ネギ

「は、せこ、 ゆりこへお願こつめ。」

「へー」 ぬいこへお願こつめ。」

学園長

「しかし、 まかせ教諭実験とむーじゅうなんのかのう。」

ネギ

「まあ、」

トイ

「なるほど」

学園長

「今日から3日までじゃ……」

少し間をあけて

学園長

「ところでネギ君、レイ君、二人には彼女はあるのか?ビービーじゃな
?・?づけの孫娘なぞ?」

このか

「ややわ、じーちゃん」

セレビーのかによるトンカチつつこみが炸裂した。

で、騒ぎ出すのはそれとは違ひ

アスナ

「ちょっと待ってくださいってば!!
だ、大体、子供が先生なんておかしいじゃないですか!しかもウチ
の担任だなんて……」

しかしそれをスルーする学園長
頭からは出血しているがそれも本人はスルーしていた

学園長

「ネギ君、レイ君、この修業はおそらく大変じゃぞ。駄目だつたら故郷に帰らねばならん。一度とチャンスはないがその覚悟はあるのじゃな?」

レイ&ネギ

「「せ、せこひ、せつます。せひせひだぞ。」

学園長

「……うむ、わかった! では今日から早速やつてもうらおつかの。指導教員のじずな先生を紹介しよう。じずな君! 」

すると「はい」の声と共に奥の部屋より人が現れた。

学園長

「わからない」とあつたら彼女に聞くといい。」

しずな

「よろしくね

レイ

「よのしへの願いしてやる」

ネギ

「はー」

そしてお園にはぶつかりやけた

学園長

「セツセツ、もう一回。」の、アスナちゃん。
しばりへはネギ君、レイ君をお前達の部屋に泊めてもいいんかの。
まだ住むとい決まつとらこのじやよ。」

アスナ

「げ」

ネギ
「え」

レイ&ジのか

「・・・」

アスナ

「もひつ そんな何から何まで学園長……！」

訴えるアスナだが

このか

「かわえーよ、この子たち」

アスナ

「ガキは嫌いなんだつてばー！」

学園長

「仲良くしなさいー！」

で、おとなしくなるが……

現在教室に向かって移動中。

で、ネギとアスナは並んで歩くもお互いに非干渉をきめじたが、
にみえる

それを後ろからついてくるのは
このか&レイ&じずな先生

の三人

で、ネギが干渉しようつと話しかけ……

アスナ

「あんたたちなんかと一緒に暮らすなんてお断りよーー! 寝袋でも暮
らせばいいでしょー!」

じゃあ私先行きますから先生たちーーー!」

そういうのをつれて先に行ってしまった。

.

ぬりひょん？いえ学園長です。（後書き）

～オリキャラ紹介～

名前：レイ・スプリングフィールド

性別：男

容姿：白髪ロング、両目は黒色。ちよいと女顔。ただし、ギリギリ女子には男の子と理解していただける模様。

性格：優しい。が、女の子に間違えた男に対しては冷酷な眼差しを向ける事があるらしい。

詳細：本作の裏の主人公。で、第一話で喋っていたレイの魔力で編まれた人間。（ただし本人は理解しない。）

魔力量は下手をするとネギ以上である。

ちなみに親類への愛着は強く、血の繋がりがなくとも好意を持つた相手が窮地になると『神出鬼没』のライセンスを取得する。

というわけで本作のネギの双子の兄弟役で出ました。レイさんです。

ちなみにあえて言つならレイが兄になります。

ちなみに彼はレイさんの魔力で編まれた存在なのでネギのような属性に特化しませんでした。

ただ敢えて属性にするなら

属性：剣、盾

と、どうやらの正義の味方に似てしまった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8789y/>

ネギま！～時の欠片～

2011年11月26日20時57分発行